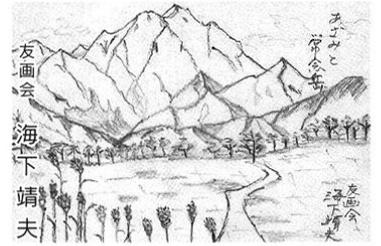


泉の自治だより

題字は泉連合区会長 安藤 恭彦

№. 65

発行所 泉町連合区会
 発行責任者 連合区会長 安藤恭彦
 事務局 (泉公民館内)
 土岐市 泉中窯町
 TEL 55-3653
 編集部長 今井 敏美



合併問題を考える

問題の先送りはおめんです!!

後顧に憂いのない合併協議を!

「新市の一体性という見地からも、権力の二重構造となるのは問題。」
 「地域の財産に対す

▼これまでの協議会での主な意見
 「土岐市では山林三〇九一ヘクタールを新市に引き継ぐことを了解している。特財制度は土地を処分した場合に限るので是非認めてほしい。」
 「対等合併であるからには権利も義務も公平にすべき。既得権の温存は新市の一体性を損なう。」
 「土岐市の覚え書は期限付きだったことを考慮すべき。」
 「市民感覚として、今まで守ってきた地域の財産を全て新市に出すというのは理解できない。」
 「土岐市の考え方は管理と執行体制が不明確でわかりにくい。」

▼「特財」ひとまず決着!
 昨一五年七月に東濃西部合併協議会が発足して以来進められてきた合併についての話し合いも、去る六月二七日開催された第一四回本協議会で最大の難関と見られていた「財産の取り扱いについて」の協議がなされ、かねてから土岐市が主張していた「特財制度」を一部修正の上、その存続を認めるという形で「決定」されました。

この問題は、本紙先々号でも取り上げたように、昭和三〇年の土岐市合併時、それまで旧町村各区が保有する山林をすべて市有地とし、その土地の売却益は地元の公共事業に充てることのできる、とした覚え書によってこれまで運用されてきた土岐市独自の制度「特財制度」の取り扱いをめぐって、これを守ろうとする土岐市とその特殊性に首をかしげる他市町との間で激しいやりとりが繰り広げられてきていたものです。

これは、六月二七日の本協議会前夜に急遽開催された三市一町首長会議で土岐市長が「土岐市合併時の覚え書」の破棄など、譲歩を示したことで、問題の協定項目第一〇号「財産の取り扱いについて」は別掲のような修正案として本協議会に提案され、採決の結果決定されたものです。

▼果たして特財制度は守られたのか
 協議後、塚本市長は「緑を守ってきたことを理解していただき、喜ばしい」と語った(中日記事)というが、本当にこれでよかったのか、後顧に憂いの残すことにならないのか、いづれにしてもこれでこの問題についての今後の検証は、真の当事者である私たちの手に委ねられることになりました。協議会での協議は、あくまでも判断材料として

の項目の確認をするものであって、最後の決定は私たちが行わなければなりません。
 合併の実現までにはまだまだ超えなければならぬハードルがいくつも設定されています。
 公共料金、福祉、教育、のほか全ての項目についてさまざまな問題点を暮らした視点から指摘し、納得の行く協議結果を得るために、これからが、私たちの出番です。

協定項目第10号

①首長会議で決定し協議会に示された修正案

【財産の取扱いについて】(下線追加案)

財産の取扱いについては、次のとおりとする。

- 3市1町の所有する財産、公の施設及び債務は、すべて新市に引き継ぐ。
- 南姫財産区、釜戸財産区、日吉財産区、大湫財産区、土岐口財産区の区有財産は、それぞれの財産区有財産として新市に引き継ぐ。
- 旧来の慣行により、財産又は营造物を使用する権利及び財産の管理若しくは処分又は財産から生ずる収益の取扱いについては、合併前の条件により、その権利を新市に引き継ぐ。

ただし、土岐市の旧土岐津町、下石町、妻木町、鶴里村、曾木村、駄知町、肥田村、泉町の地区にかかる市有地(昭和30年合併時引継ぎ財産)について売却が発生した場合は、それぞれ当該地区の公共事業費に充てるため基金に積み立て、新市の歳入歳出予算に計上して管理運用するものとし、その管理運用は新市の市長に委ねる。

る土岐市としての関わりはどうか。」「財産処分による収益はすべて旧町村に属するが一般会計をとおして処理をされており、議決を経ている。」
 などなど、特財制度への理解不足からくる意見が目だっていました。

▼急転直下の「決定」、その修正案とは?
 合併協議会ではあらかじめ設定された「合併協定項目」について協議を行ってきました。今までの基本的協定項目四項目、合併特例法による協定項目五項目及び、すりあわせが必要な協定項目四〇項目、合わせて四九項目

6月		7月	
1	土岐川一斉清掃衛生センター環境保全委員会	1	第一回声かけ運動
2	土岐市自治理事議会	2	花火大会警備打ち合わせ
2	土岐市自治理事議会 明の選挙土岐市推進協議会	4	廃棄物減量推進協議会
3	土岐ふるさと祭り	7	土岐市自治理事議会 合併住民説明会勉強会
4	土岐川改修整備促進協議会	9	合併住民説明会勉強会
5	土岐ふるさと祭り実行委員会	14	第二回声かけ運動
10	土岐足助線改良整備促進助成同盟 総会	15	第4回声かけ運動
12	土岐市敬老会合同説明会	15	第4回連合区会
16	第2回女性部役員会	19	連合区要項事項協議会
16	泉地区道徳教育推進会議		
17	さわやかウォーキング反省会		
21	連合区会		
23	泉町教育問題を考える会		
25	土岐可児線五斗時地区改良事業説明会		
26	社会福祉協議会泉支部部会		
27	社会福祉協議会支部連絡会		
30	市営住宅入居者選考委員会		

◎編集部より投稿募集のお知らせ
 泉の自治だよりは泉の皆さんの声をのせて語る紙面のプラザ広場です。

◇安心して住みよい街づくりにご提案を!!
 ◇泉の関心事についてご意見、ご提案を!!
 ◇自分の趣味(写真、詩、絵画)などの発表に!!
 ◇スポーツ、ウォーキングなど健康問題等!!
 ◇嬉しかった事、悲しかった事、体験文など!!
 ◇その他何でもOKです。

◆応募(投稿)方法
 泉町中窯町1丁目
 泉公民館 泉町連合区会事務局
 ☎55-3653

・募集期間―随時
 住所、氏名、年令、電話番号

第一回「定林寺祭」を開催して

定林寺街通り実行委員会 委員長 大野 敏 幸

去る、五月三日、四日、五日の三日間、第一回定林寺祭を行い多数の方々に来て頂き、有り難う御座いました。成功の内に終わる事が出来た。昨年度、区会で街起こしの一環として、定林寺区街づくり委員会を立ち上げ、泉陶磁器工業組合役員関係者を中心として、商店主、陶器商店主等で委員会を作り、泉陶磁器工業組合内に事務局を置き、明智町の大正村の街起こしをされた方に講演して頂き、手作りの街起こしをすると言う事で進めて来ました。区も予算を付け、委員会を作り、定林寺まつりの旗、窯元巡りの旗、窯元めぐりのロードマップの製作、会場案内図、駐車場誘導看板の製作、ボランティアの募集、出店者の募集を行って、皆様方の協力が無事当日を迎える事が出来ました。お除様で、連日沢山のお客様に来て頂き、賑やかなまつりが出来、皆さんに喜んで頂きました。

窯元巡りでは、団地祭りとして重なる沢山のお客様にきて頂き、公民館の駐車場へは、東京、横浜、千葉、茨城、群馬等のナンバーがあり、西の方では、広島、岡山、なにか、三重のナンバーがありました。

もちろん、近隣、近頃の車も見受けました。公民館でお茶の接待などのとき、お聞きした所、皆さんから素朴で真心のこもったとつてもいいまつりで普段見えない窯元が見え、親切に説明をして頂き、安価で品物を売って頂き、感謝していますという声を聞き



当初「文化会館周辺の街おこし」について協議会を立ち上げたのが平成十四年二月十五日、二十一名のスタッフは自治会役員、議員、郵便局、建築、信用金庫、製陶、陶芸、観光協会、地域代表主婦の方々で、組織づくり、更に協議会規約づくりと毎月一回の定例会議を設け、街おこしの具体策を話し合う。会名を「久尻産業観光振興計画策定のための協議会」と銘を打ち、久尻の産業観光資源の把握と活用について議論を重ねること二十二回。

久尻地区には皆さんご存知のように、国指定の文化財元屋敷窯跡の史跡をはじめ、乙塚古墳、中世代の生物の恐竜化石出所地有名な隠居山など歴史的に非常に重要な文化財がこの地、久尻には稀にみるほど集まっている。古窯が物語るっているように古くから陶磁器産業も盛んな街で伝統工芸も異彩を放ち、云わば土の臭いが豊かな街である。

協議会は街おこしの機軸に前述の豊富な史跡と陶磁器産業を看板に掲げ有りの儘の土臭い道で各所を継ぎ、このコースに多勢の人を呼び込み目的の産業観光の一頁を築くことを考え、試みに地域の方々にはPRしたところ約百五十名の参加を頂き大きな自信をつけ、今年五月二十四日にはJR東海のさわやかウォーキングで「織部の心を訪ねて、土岐陶磁の里めぐり」を歌い名余り県内外から約四千名の方々が久尻へ集まりました。細い田の畦道から緑ヶ丘の土岐津駅建設記念碑、織部の道を通る人、人、人は蟻の行列にも似た様、途中に沢山の出展店があり、旅人の健康な笑い声が久尻と大富の山々に木魂する久尻、大富の自治会役員、久尻地域のボランティアの方々、JR東海の熱の入れようでこの街にも人の「ごたま」が走りまわりました。

私共協議会は更なる久尻の街づくりの一つの点にすれば市内各所に多くの産業観光の点を作り、この点を線で結び全体が産業観光の力が拓け、人が動き物が動き活力のあふ豊かな街づくりをしたく考えています。

地域の人が結びついた活動をすれば、この力は必ず豊かな街づくりを構築する力となると考えます。



久尻産業観光振興計画協議会より

会長 川上 保男

第一回泉町教育問題を考える会

教育関係諸団体の有識者32名で開催
主催 泉町連合区 6月23日泉西公民館にて

最近の子供の生活上の問題点：現状とその対策が話し合われました。頭は悪くない、注文した事、教えた事はきちんとやってくれる、一部の親が子供を甘やかしている、服装の着方にだらしないなど日々子供らに接している教師やPTAの人達の本音を聞いた。全国的にそうだが今時の子供の姿そのものだと感じたが、やはり地域社会で考え行動する事が必要である。

子どもの笑顔溢れる町づくりをめざして

泉町連合区会長 安藤 恭彦

少子高齢化社会、泉町の小中学生の数も町の人口の僅か九%、町の将来はこの子達の肩にかかっている大事な町の子どもです。

「子どもは環境を育つ」と言います。家庭環境は勿論のこと、地域の環境が子どもの育ちに大きく関わっています。そこで、連合区として、

「子どもは笑顔溢れる泉町」を目標に具体的な活動をしていくために教育関係諸団体の有識者に集まって頂き、

「考える会」が中心となって、校門周辺で声をかけ、

地域のの方々、PTAの方々の自主的な参加を期待し、この運動の輪が一層広がるようご協力をお願いします。

毎月十五日
毎月一回
毎月一回
毎月一回

お詫びと訂正

第64号(平成15年5月31日)発行の「泉町各界代表者の方々です」の所で泉町農事改良組合長の顔写真と氏名がまちがっていましたので、お詫びと訂正致します。



泉町農事改良組合長 会長 加藤 隆一

連合区の提案

子どもの笑顔溢れる泉町

子どもに出会ったら
元気に笑顔で声をかけよう

- 1、社会教育委員、公民館長 全体把握、成果確認
- 2、自治会 毎月一回 交通指導日 街頭で声かけ活動
- 3、考える会メンバー 毎月一回 中学校周辺で声かけ活動
- 4、保護司 問題行動生徒の指導
- 5、民生児童委員 中学校と連携をとって、問題行動生徒の家庭指導
- 6、育成会 中学生参加行事、ボランティア活動